

北方区有文書目録解題

北方（きたがた）集落は、飯田川中流域左岸にあり、江戸時代は頸城郡高津郷北方村と呼ばれ、天和年間（1681～83）以降は幕府領で、当時の村高は208石であった。明治12年（1879）から中頸城郡に属し、明治22年から高士村の大字となり、昭和34年（1959）から高田市に合併、高田市は昭和46年に直江津市と合併して上越市となり、その大字として現在にいらっている。

この史料群は、北方集落で保管してきた「区有文書」で、平成13年（2001）4月、市史編さんのため借用してマイクロフィルムに収録した。

その内容は、飯田川から取水して地域の圃場を灌漑する重川（じゅうかわ）用水に関するもの、地域の消防に関するもの、飯田川の治水に関するもの、神社用地に関するものなど、地域共同体として引き継がれてきた書類である。

ブドウの栽培とワインの醸造で知られる川上善兵衛は、北方村の庄屋の出身。明治23年～24年（1890～91）にかけて、自宅の庭園や山林を開墾してブドウ畑をつくり、明治26年には、はじめてワインの醸造に成功したといわれる。この史料群の中にも、共同体の議定書などに「北方村庄屋川上善兵衛」の署名が見える。



